

ロシア（極東）

極東経済の概況

ロシア連邦国家統計庁の統計データをもとに、2009年の極東経済の状況を概観する。

鉱工業生産増加率の動向を見てみると、ロシア全体で鉱工業生産が減少（対前年比10.8%減）する中で、極東連邦管区だけが増加となっており、好対照を成している。極東連邦管区では、特に採掘産業が好調で、出荷額は対前年比14.3%増加した。これに対して、加工産業は5.8%減少となった。連邦構成主体別に見ると、アムール州、マガダン州、サハリン州、チュコト自治管区で鉱工業生産が増加したが、これらの地域は特に採掘産業の増加が大きかった地域であり、その上、加工産業でも増加を記録している。石油、天然ガス、金などの採掘の増加がこれらの地域の生産を押し上げているものと考えられる。例えば、サハリン2プロジェクトで2009年3月からLNGの出荷を開始したこともあり、サハリン州では天然ガスの生産が対前年比2.3倍となった。

2009年の極東経済を特徴づけるもう一つの指標は、固定資本投資である。これも、ロシア全体では大幅に減少（対前年比17.0%減）したのに対し、極東では増加傾向にある。1-9月までのデータであるが、チュコト自治管区が前年同期比2.8倍、沿海地方が同2.2倍となっている。前者では、道路橋の建設や金の生産拡大のための投資が増加したことが、後者ではエネルギー資源輸送関連プロジェクトやAPEC首脳会合に向けた投資が増加したことが反映したものと考えられる。

ウラジオストク拠点化プログラム

2012年のAPEC首脳会合のウラジオストク開催に向け、連邦政府が策定した「アジア太平洋地域の国際交流拠点としてのウラジオストク市の発展」サブプログラムにしたがってインフラ整備などが進められている。サブプログラムと称しているのは、連邦特別プログラム「2013年までの極東ザバイカル経済社会発展」の一部を構成する形となっているためである。サブプログラムは09年11月28日付政令により改訂され、事業項目数が18から27項目に、事業費が2,842億ルーブルから5,534億ルーブルへと増加した。幹線ガスパイプライン建設など、新規に追加された天然ガス関連事業の事業費が2,561億ルーブルであり、この分の増加が大きく影響している。これらは予算外の資金で実行されるプロジェクトである。連邦予算からの支出は、2,022億ルーブルから2,019億ルーブルへと微減しており、一定の予算枠の中でやりくりしたことが分かる。景気後退により

建設単価が下がったことなども考慮したといわれている。そのほかに事業費が大きいのは、既に工事進行中の東ボスポラス海峡横断橋や金角湾横断橋など道路関係で、計999億ルーブルである。

極東の発展戦略

前々号の動向分析で「極東およびバイカル地域の発展戦略」の策定作業がもたついていることを取り上げた。その後、09年12月28日によりやく最終的に政府承認の公式文書となった。

5月に公表されていた草案と比べると、最後に「ロシア連邦構成主体と中国東北各省及びモンゴルとの国境協力、並びにその他の北東アジア諸国との経済交流」が一つの章として追加されていることが目を引く。この章では、極東バイカル地域の発展のためには、ハイテク技術を用いた高付加価値製品を北東アジア地域に輸出していくことが重要だということを指摘している。また、極東バイカル地域の製品やサービスの競争力向上には、法制度の整備やハイテク企業のための環境整備などが必要であるとも指摘している。その上で、運輸など計11の分野ごとに主要プロジェクトの紹介などを行っている。

本戦略全体についての評価であるが、天然資源を原料として輸出するのではなく加工度を高めること、居住環境を整備して人口の定着を図ること、特にイノベーションを担う高度な人材を確保することなど、目指す方向性については常識的なもので、どこからも大きな異論は出ないものと思う。問題はこの戦略をいかに実現、活用していくかである。詳細な分析はできていないが、各論部分では各省庁や連邦構成主体がそれぞれ希望するプロジェクトをとにかく列挙したとの印象を受ける。盛り沢山であることの裏返しとして、実現性に疑問を抱かざるを得ない。

09年12月28日付の政府命令書第2094-rでは、本戦略の承認と併せて、その「実現計画」を策定することを指示している。また、本戦略の内容に準拠した形で極東ザバイカル発展プログラムの改訂を行うことも指示されている。その際、計画期間を18年までに延長することになっている。10年3月には、政府において改訂プログラム案の審議が行われる予定である。前述のウラジオストク拠点化サブプログラムは連邦政府が特段の配慮を行っていることもあり、過去の極東地域の発展プログラムに比べると順調だ。18年を計画年次とする改訂プログラムがどのようなのか、今後もフォローしていきたい。

(ERINA調査研究部部長代理 新井洋史)

